2016年9月4日

福音書からのメッセージ

> だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。
> （ルカによる福音書 14 章 33 節）

今日の箇所で、イエス様は大変厳しい言葉を語られます。この言葉はエルサレムに向かうイエス様について歩いていた群衆に向かって発せられました。食糧が豊富にあるわけでもなく、泊まる場所も決まっていない旅を続けていた彼ら群衆。イエス様にとっては味方であったはずです。しかしその群衆に向かって、イエス様は語気を強めるのです。

なぜそのような言葉をなげ掛けたのでしょうか。それは、イエス様に従うということは甘いことではないということを、十字架に向かう前にしっかりと伝えたかったのではないでしょうか。そしてイエス様に従おうとするわたしたちにも、その厳しさは伝わってくるのです。

イエス様はこのように言われます。「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない」と。この「憎む」と訳された語は、わたしたちが一般に用いる、怒りや敵意を向けるという意味とは少し違います。原文では「背を向ける」というニュアンスをもちます。つまりイエス様の元に行くのであれば、家族や自分の命に対して背を向けなさい、ということになります。

わたしたちには、大切なものがあります。家族も今の生活も、持っているものだってなかなか手放せません。でもイエス様は言われます。あなたがたはわたしの弟子となるのであれば、それらに背を向け、もっと大切なものに目を向けなさいと。そしてその大切なものこそ、神さまなのです。イエス様は決して自分のことを嫌いになりなさいと言っておられるのではありません。家族や自分の欲望にしがみついていないで、神さまに向き直りなさいと、イエス様はわたしたちに求めておられるのです。

腰をすえて考えたときに、わたしたちは塔を建てることも、二万の兵に立ち向かうこともできない自分の力に気づかされます。しかしそれと同時に、イエス様を通して神さまからの豊かな恵みが与えられていることにも気づくはずです。だからわたしたちはその素晴らしい恵みに身を委ねるのです。

たとえば海で浮こうと思ったら、身体の力を抜いて、波に身を任せるでしょう。自分の持っている物にしがみついていては、身体は沈んでいくばかりです。同じようにイエス様の弟子となるということは、イエス様は全てを委ね、歩いていくことです。自分の持ち物に背を向け、イエス様と共に歩んでいきましょう。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町 184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/